

4・5歳児の発達 指導のためのプログラム

< 展開例 >

1. 指導の機会

保育所・幼稚園（保護者会）

2. 対象

4・5歳児の保護者

3. ねらい

- ・4・5歳ぐらいになると言葉で自分の思いや考えを親に伝えられるようになることを理解する。
- ・仲間の一員として自覚し自信や信頼感が生まれることを理解する。
- ・親のスタンスを考える。

(1) 題材 Step 5 4歳児の成長の様子、Step 6 5歳児の成長の様子

(2) 展開 (例 5歳児)

時配	指導の流れ	指導上の留意点
2 10	<p>1 導入</p> <p>○ねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; margin: 10px 0;">5歳児の発達を考えましょう</div> <p>2 展開</p> <p>(1) 4～5歳の頃の成長の中で、友達とのトラブルが多くなることを説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffff; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><おもなトラブル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんに叩かれた。 ・Bさんにブロックをとられた。 ・Cさんが仲間に入れてくれなかった。 ・Dさんが貸してくれなかった。 <p style="text-align: right;">など</p> </div> <p>(2) 子ども同士のトラブルがおこった時、どんな言葉かけをしているかを問う。</p> <p>○「いつ」「だれが」「どうしたの」「お母さんが話すから」など子どもの話の途中で親が疑問や質問攻め、詮索をしたり、親の意見を言ったりしていることが良くあることを説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffff; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの話をじっくり聞く ・筋道立てて話しをさせる ・自分自身で解決するにはどうするかを考えさせる </div>	<p>○子ども同士のいざこざを出し合う。園で多いいざこざの例を出す。</p> <p>○子ども同士のトラブルとなると親は「先にやったのどっち?」「どうしてそうなったの?」「きちんと頼んだの?」「どうして仲間に入れてくれないのか聞いた?」「先生におかあさんが話すから」など親が疑問や質問攻め、詮索をしたり、子どもの気持ちを考えないで親の意見を言ったりとしていることが多いということを強調する。</p>

(1) 子育てワークシートの活用上の留意点について指導する。

(2) 家庭教育支援資料（保育所・幼稚園6）「Step6 5歳児の成長の様子」を配布し、講話を行う。

- 「Step6 6-5 言葉で自分の思いや考えを伝え、相手の話も聞ける」の項目をチェックし、5歳児の発達を考える。

・子どもの言葉や思いに共感しながら話を聞いたり、どのように解決したらよいか一緒に考えたりすることが育ちの土台になる

- 「Step6 6-6 「仲間の一員として自覚し、自信や信頼感が生まれる」の項目をチェックし、5歳児の発達を考える。

・子ども同士のかかわりの中では、感情や気持ちの衝突が生まれてくる。葛藤を前もって排除するのではなく、子どもの行動を見守りながら相談相手になることが大切である。

(3) 親のスタンスについて講話をする。

- ・基本的な生活習慣を身につけさせる
- ・自信や意欲を持たせる
- ・気持ちや考えを聞く姿勢を持つ
- ・友達を大切に思う気持ちを認め、励ます
- ・命の大切さを伝える など

○あくまでも発達の目安であることや成長には個人差のあることを話す。

- 子どもの話をじっくり聞いてあげると、相手の話もじっくり聞けるようになることに気づかせる。

○話をじっくり聞いて、子どもの気持ちや考えを受けとめ、自力解決に導くことが大切であることに気づかせる。

- 子どもは遊びや葛藤を通して友達とのかかわり方や、共同して遊ぶ楽しさを味わい、規範意識や自制心が芽生えるということを強調する。

- 5歳児の成長の様子を親のスタンスから抜粋し話す。